特別講演

猫の心筋症への挑戦：
ガイドラインを活用した臨床診断と治療戦略の最新知見

日本獣医生命科学大学　獣医内科学研究室
附属動物医療センター　循環器科

鈴木　亮平　**Ryohei Suzuki**

略　歴：

2010年	日本獣医生命科学大学獣医学部獣医学科卒業
2014年	日本獣医生命科学大学大学院獣医学選考博士課程修了　博士（獣医学）取得
2014－18年	都内動物病院勤務獣医師、日本獣医生命科学大学　大学院特別研究生
2018－19年	日本獣医生命科学大学　付属動物医療センター　助手
2019－22年	日本獣医生命科学大学獣医学部獣医学科獣医内科学研究室　助教
2022－現在	日本獣医生命科学大学獣医学部獣医学科獣医内科学研究室　講師

要　　旨

猫の症例が多く来院する病院とそうでない病院があるかもしれませんが、本学では猫の症例が確実に増えている印象があります。そして猫の症例では心筋症、とくに肥大型心筋症の発生が多いです。本講演では、臨床現場で猫の心筋症と戦うために役立つ情報として、ガイドラインを活用した臨床的な診断方法と治療戦略の最新知見をお話しします。

診断について、多くの猫が無徴候であり、猫の性格や検査の困難さなどもあいまって診断がまず難しい症例も多いのではないでしょうか。本講演では、猫の心筋症におけるガイドラインを活用した診断ポイントをおさらいします。また肥大型心筋症のみならず、拘束型心筋症の症例にもしばしば遭遇するため、その概要をお話ししたいと思います。さらにガイドラインでの重症度評価は主に左心房拡大や心不全および血栓症の有無に基づくステージ分類が中心ですが、その他の病態判断ポイントとして、演者が治療対象と考えている血流閉塞所見、血栓症や心不全への進行を懸念するうっ血所見、血栓症進行因子、不整脈の併発所見などについて、実症例をお示ししながら確認していきます。

治療について、現行のガイドラインでは、推奨レベルの高い治療戦略は多くありません。しかし、心不全を呈して来院した呼吸困難の猫や、明らかな症状はないけれど心筋肥大の明瞭な症例など、臨床現場では治療をするべき、あるいは治療をしてあげたい状況も多く存在すると思います。そのようなときには、やはり適切な病態の理解とそれに基づいた理論的な治療戦略が役立つと考えますので、私なりの治療戦略を、近年の最新知見を盛り込みながらお話しします。

皆様の臨床現場で役立つような内容となれば幸いです。